

## 1. 事前の状況

学 級	抽出児童
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業において、ペアで話し合う活動やワークシートへの記述を互いに読み合う活動に積極的に取り組む児童の姿が多く見られる。</li> <li>・「授業で友達の考えを聞いてみたい」と思っている児童の割合が9割以上であることに比べ、「自分の考えを友達に伝えたい」と思っている児童は7割と割合が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳ノートに自分の考えを記述しているが、考えを交流することに対しては消極的な姿が見られる。</li> <li>・友達の考えを聞いて、自分の考えが深まったり広がったりしたこと、道徳の学習で自分が成長したという実感がもてないことから、道徳の学習に対する意欲が低い。</li> </ul>

## 2. 評価とフィードバックに対する指導者の考えや気付き

- ・話し合う活動を通して、児童が多面的・多角的な見方や考え方ができるよう、児童がワークシートに記述したことを記録し、意図的指名につなげたり、認める言葉がけをしたりすることを意識する。
- ・指導者の価値の押しつけにならないよう、児童の学びや気付きを大切にしながら、認める言葉がけや記述に対する下線の記入等によりフィードバックしていく。

## 3. 評価とフィードバックの充実に向けてのおもな手立て

- ・本時で目指す児童の姿を明確にもち、何をどのように考えたり気付いたりするとよいのかを具体的にイメージして児童の学びの姿を評価する。評価したことを基にして意図的指名や問い返しを行い、話し合いを促す。
- ・児童の学びや気付きを大切にしながら、認める言葉がけにより児童自身の成長の実感や意欲につながるフィードバックを行う。

## 4. 本時の様子

### (1) 本時のねらいと展開

- 主題名 広く受け入れる心 【内容項目 B 相互理解、寛容】
- 教材名 「ブランコ乗りとピエロ」(「小学道徳 生きる力 6」 日本文教出版)
- 本時のねらい(下線部は目指す生徒の学びの姿)





団員、ピエロ、サム的心情をそれぞれの立場に立って考えることを通して、相手の考え方を謙虚に受け止め理解し合うことが、よりよい人間関係を築くことにつながることに気付き、自分と相手との見方や考え方に相違があっても、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重しようとする態度を育てる。

### ●本時における評価とフィードバックの工夫

- ・中心発問では、ペアや全体で話し合う活動を設け、児童の記述や発言から、自分とは違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしたり、自分の経験や生活と重ねながら自分の考えを深めようとしたりしている姿を見取り、座席表に記録する。評価したことを基に、意図的に指名して学級全体に広げたり、認める言葉がけを行ったりしてフィードバックの充実を図る。
- ・児童の振り返りの記述に対して、多面的・多角的に考えているか、自分自身との関わりから考えているか、道徳的価値の理解を深めているかを評価し、下線を引き分けて児童へのフィードバックを行う。

## (2) 評価とフィードバックの実際

	学習活動・主な発問	評価・フィードバック ※( )内は評価を行う対象
導入	1. 教材「ブランコ乗りとピエロ」を読んで、主題について考える。	
展開	<p>2. 教材で考える。</p> <p>○団員たちはサムとピエロに対して、どのような気持ちで口を閉ざしていたのだろうか。</p> <p>◎ピエロはどんな思いでサムを許したのだろうか。(中心発問)</p> <p>○固く握手を交わしたサムは、どんな思いだったのだろうか。</p> <p>3. 考えを深める。</p> <p>○人を許すにはどんな考えが大切なのだろうか。</p> <div data-bbox="236 1176 542 1317" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>相手の思いを理解し、共感できるということ</p> </div>  <p>ICTを活用して意見を交流</p>	<p>評価の視点①(記述・発言)</p> <p>☞言葉がけ、意図的指名</p>  <p>児童の考えを記録する指導者</p> <p>評価の視点⑥(記述・発言)</p> <p>☞言葉がけ、意図的指名</p>
終末	4. 本時の学習を振り返る。	<p>評価の視点：自己を振り返り、自分なりの課題を見つけたり、これからの自分の生活や生き方に生かしたりしようとしているか。(記述)</p> <p>☞下線の記入</p>

## (3) 本時に向けた授業構想および実践から学んだこと・気付いたこと

- ・児童の考えを座席表に記録したり、ICTを使った意見の交流を取り入れたりしたことが、児童の学習状況を把握することにつながった。また、把握したことを基に、意図的指名を行い、児童の考えを学級全体に広げながら話し合いを促したことで、活発に話し合う児童の姿が見られた。
- ・指導者が、評価の視点を意識し、認める言葉がけや下線の引き分け等により児童へのフィードバックを継続して行ったことで、児童の発言や振り返りの記述の内容の深まりが見られるようになってきた。
- ・指導者が、本時で目指す児童の学びの姿を具体的にイメージしておかないと、授業の中で児童が迷うことになる。今後も、指導の意図を明確にもつことを意識して授業づくりに取り組みたい。



## 5. 児童の変容

学 級	抽出児童
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 友達の考えを踏まえて自分の考えや思いを発言したり、ワークシートに記述したりする児童が増えてきた。</li><li>・ 「自分の考えを友達に伝えたい」と思っている児童の割合が7割から8割に増え、学習の中で自分の考えを相手に伝えることへの意識の高まりを感じる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「自分と異なる立場や感じ方、考え方を受け止め、理解しようとしている」、「友達の考えを聞いてみたいと思う」という質問に対して「当てはまる」と回答した。授業の中で、自分と似た考えの友達を探して、意見を交流しようとする姿が見られ、考えを交流する活動への意識の向上が見られた。</li></ul>



## 6. 指導者による振り返り(成果と課題)

- ・ 本時で目指す児童の学びの姿を具体的にイメージし、その姿を評価する場面や方法を考えて授業づくりをすることができた。また、児童の学習状況を把握し、意図的指名につなげることや、児童の振り返りの記述に対して下線を引いてフィードバックすることを意識し、評価の視点を基に授業を実践できた。
- ・ 評価とフィードバックを意識した授業を実践する中で、児童が自分の素直な意見を発言したり、友達の考えを自分と比較しながら聞いたりする児童の姿が多く見られるようになった。本研究の授業づくりを今後も実践し、授業の質を高めていきたい。

## 道徳科の授業を実践される先生方へのメッセージ

授業を構想する際、本時のねらい、中心発問、話し合う活動における手立てについて考えることを大切にしてきました。指導者が、どのような児童の姿を目指し、どのような意図で指導するのかを明確にもち、その姿や意図を常に意識して授業を行うことが大切だと思います。評価とフィードバックに重点を置いた授業構想や実践を積み重ねていくことで、授業に対する評価の観点をもつことができ、授業改善を図ることができると思います。

